

受難週の始まり

2026年3月8日

序：キリストの十字架と復活（今年の復活節は4月5日）
今日は前半（エルサレム入城、イエスが香油を注ぐマリア）
ユダヤの大祭のひとつ、逾越の祭りが数日後に迫っていた
この大事件が起こるのは、ローマ帝国内各地から巡礼で上ってきた人々の前
三人（イエス、ピラト、ヘロデ）が同時期にエルサレム入り

I. 十字架に向かって進まれるイエス
弟子たちへの教え・預言（ご自分の死と復活、聖霊、終末のできごと）
未信者を回心に導く（エリコの取税人ザアカイ）
奇跡（盲人のいやし、ラザロを生き返らせる）
ユダヤの指導者たちへの警告

(1) ベタニヤに到着（マルタ、マリア、ラザロの家に泊まる）
エルサレムへは毎日往来（夜はベタニヤに帰った）

(2) 子ろばを引いて来させる（借用） ゼカリヤ書9・9成就
王なら駿馬がふさわしい？ 荷物を運ぶろばの、それも子ろば
平和の王、へりくだった姿
すでに備えられていた 「主がお入り用なのです」

(3) 弟子たちが上着をかけた子ろばに乗って群衆の中を進んで行かれる

(4) 人々は上着、しゅろの枝を敷いて、メシヤとおぼしきイエスを歓呼して迎えた

(5) エルサレムの住人はむしろ無関心、冷ややか
多くの人々のメシヤ観：ローマ帝国の支配から解放してくれる政治的この世的王
数日後に歓呼、賛美、賞賛の声は、簡単に速く「十字架につけろ！」に逆転する

II. イエスに香油を注いだマリア
逾越の6日前ベタニヤ到着
イエスのために晩餐（マルタ、ラザロ）

(1) イエスの死を予感、葬りの備え
※大祭司カヤパも預言 ヨハネ11・49～52

(2) 非常に高価なナルドの香油328グラムを石膏の容器を割って惜しげなく、イエスの
足に塗り、髪の毛でぬぐった 部屋いっぱい広がる香り

(3) 横槍を入れてマリアを非難するユダ
300デナリ（労働者300日分の賃金）で売って貧しい人に施せ
彼の関心は貧しい人への施しではない
金銭にたいする執着、強欲（彼はたびたび一行の金入れから盗んでいた）
イエスよりも金銭を愛した → 銀30枚でイエスを売る → 後悔 → 自殺

(4) イエスの評価
マリアを擁護、賞賛
香油をわたしの葬りの日のため取っておき、埋葬の用意にと前もって塗った
この人は自分ができる最大限をした
世界中に福音が伝えられるとこでも、語り続けられ、記念となる

III. 結び

(1) 世の王や権力者 VS 救い主イエス（闘争／平和、尊大／謙卑、救う力無／有）

(2) 神の計画の中で用いられる人（主の仰せに信じ従う／主にとってもっともふさわしいものを惜しげなくささげる）は語り継がれ、信仰者の模範、主の喜び・栄光
ちいろば、ナルドの香油

(3) 主の救いのご計画は人間の誤解、画策があっても、預言どおりに成し遂げられる

受難週前半

エルサレム入城 (イエス)

- 1) ベタニヤからエルサレムに行く
途中、オリーブ山のほとりのベテパゲで、ろばの子を連れて来させる
- 2) 上着を掛けたろばの子に乗って
群衆の中を通る。(上着、ゆりの枝)
歓呼、ホサナ、政治的救いを求める。(ゼカリヤ9:9成就)
- 3) エルサレム入城、宮に入る
- 4) タベにはベタニヤに戻る。

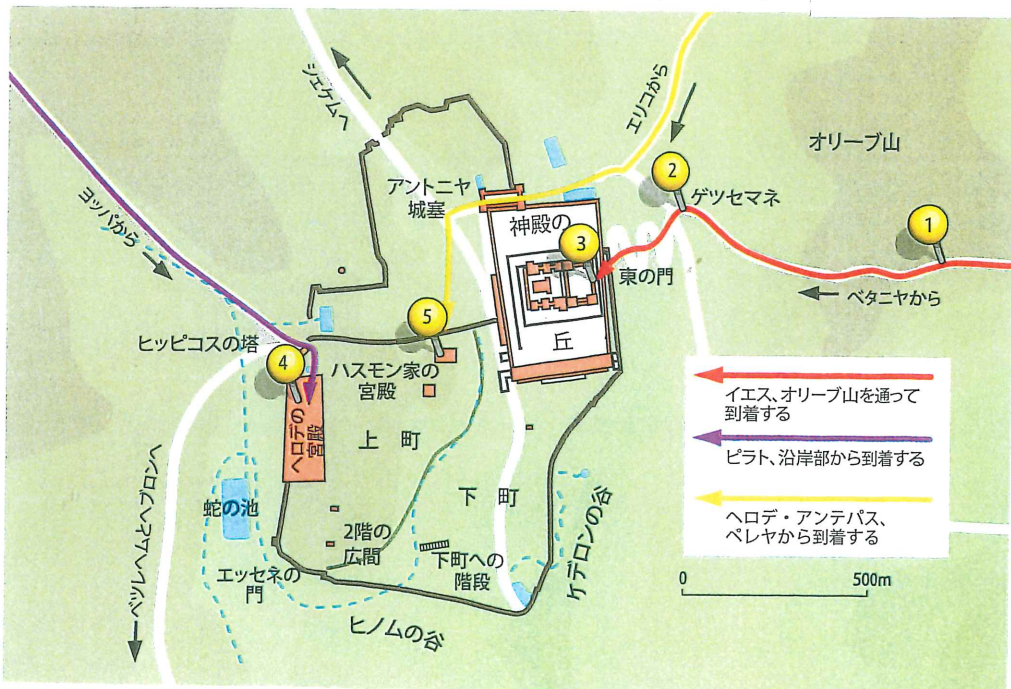
● ローマ総督ピラトもカイザリヤから
過越の祭の間の治安、大祭司の掣腕を
渡すためにエルサレム入り。(ヘロデ大王の宮殿)

● ユダヤの王ヘロデ、アンテバスの家来を
連れてエルサレム入(ハスモン家の宮殿)

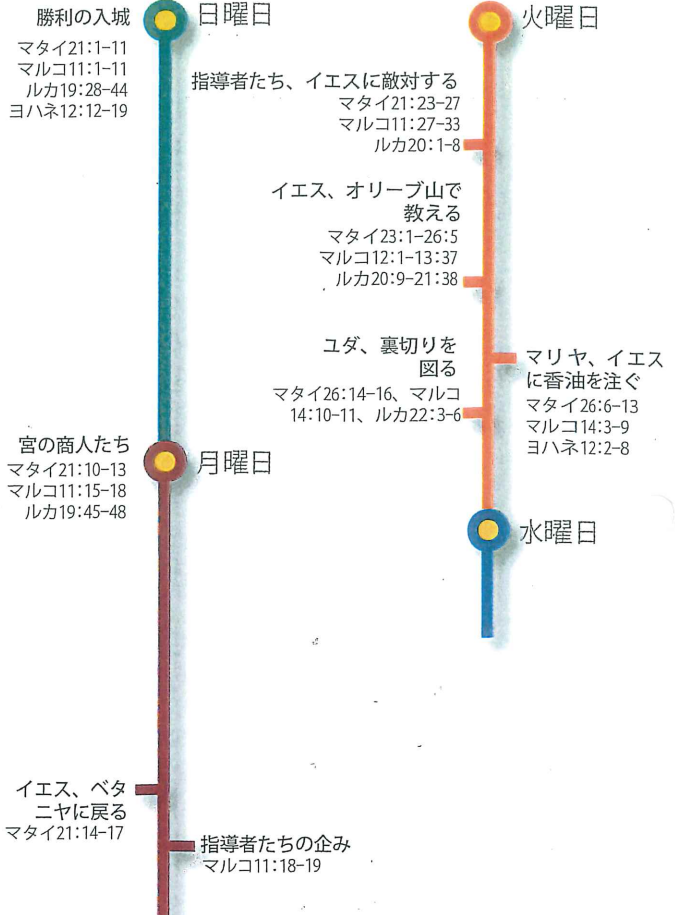
エルサレムは巡礼者で混雑
45000人 → 150000 ~ 200000人
興奮と宗教的熱気。

勝利の入城

エルサレムに入ったイエス、ピラト、ヘロデ



← イエス、オリーブ山を通して到着する
← ピラト、沿岸部から到着する
← ヘロデ・アンテバス、ペレヤから到着する



直線距離	
ベタニヤからエルサレム	2km
エリコからエルサレム	20km
カイザリヤからエルサレム	87km

「バイブルワールド」
p96-97
いのちのことば社